平成２１年度第１回北信越ブロッククラブミーティング２００９開催報告

平成２１年６月１３日（土）長野県（ホテル信濃）にて第１回北信越ブロッククラブミーティング２００９が開催された。新潟県・富山県・石川県・福井県・長野県より２７クラブ（１年目：１７クラブ、２年目：１０クラブ）が集まった。参加者は創設支援クラブを含め、合計６９名であった。

財団法人日本体育協会クラブ育成課　根本課長より平成２１年度事業概要説明があり、現在のクラブ育成状況を含めての話があった。今年度、第１回のクラブミーティングは、クラブで活躍するそれぞれの役職別で３つのパネルディスカッションを行った。クラブでは、役割分担があり、それぞれの役割内容、奮闘ぶりを紹介いただいた。パネルディスカッションの後には、毎回グループディスカッションを行い、気づいたこと、共感したことなど感想を話し合ってもらった。

はじめに、榎班長より、今回の流れを説明した。内容については以下のとおりである。

① 各パートのコーディネーターから感想･意見を言ってもらい、振り返える。

②そこから「クラブを立ち上げていく時に、何が必要なのか。」を参加者みんなで考えその意見を共有していく。

【パネルディスカッションパートＩ】

酒井地方企画班員のコーディネーターにより、パートＩとして「理事長・会長の立場から」松縄武彦 氏（ＮＰＯ法人ユートピアくびきスポーツクラブ：新潟県)、臼井良臣 氏（安曇野総合型地域スポーツクラブ　スポネット常念：長野県)、宮脇範純 氏（ＮＰＯ法人ふちゅうスポーツクラブ：富山県）のディスカッション、テーマに「クラブのミッションについて」と題し、４つの項目で進められた。

１＞クラブ PR・自慢

・地域１番を目指す・合理的な会計管理・地域との理想的な連携・30 年 50 年後を想定したクラブ

２＞クラブを作ろうとしたきっかけ、理由

・スポーツの楽しさの共有（みんなで楽しさを分かち合う）・従来のスポーツ環境の閉塞感の打開策

・競技団体、行政主導による頭打ちの打開策・地域コミュニティの構築と地域の活性化

・生涯スポーツ環境の構築・市町村合併による地域のかすがい・理念や感動の共有

３＞クラブの展望、夢、目標など

・体協からのバトンタッチ・スポーツを通じた人づくり、
　地域づくり

・更なる地域密着による、指導者（人的財産)、会員の掘り起こし

・地域コミュニティの構築と地域の活性化・人的財産、環境、
　地域特性を生かした運営

４＞私にとってクラブとは・・

・世代を越えた交流（社交）の場・奉仕の場　経験を還元する場

・財産

まとめ

・楽しくて「幸せ」を感じることが大切であり、破天荒さが地域を、スポーツを変える。

・パネラーの皆さんは、人が好きで、やさしく崇高な人である。

・言い出しっぺが動ける環境があり、不変の人材が大切である。
・クラブは社交場で、未来社会創造そのものでる。

【パネルディスカッションパートⅡ】

西原地方企画班員のコーディネーターにより、パートⅡとして「クラブマネジャーの立場から」辺見元孝 氏（木曽ひのきっ子ゆうゆうクラブ：長野県)、本多政則 氏（ＮＰＯ法人クラブスポーツバイキングぶんすい：新潟県)、西川秋子 氏（ＮＰＯ法人こすぎ総合スポーツクラブきらり：富山県）のディスカッションが始まった。テーマは「クラブの運営」と題し、進められた。

パートⅡでは、それぞれのクラブの理念に基づき、具体的なクラブの経営を担うクラブマネジャーとして、日々の仕事内容やどんなところに楽しさを見出しているのか、あるいはクラブマネジャーに必要な資質などについて、ディスカッションした。

クラブマネジャーとして実際のクラブ経営を行なってきて「理念（ミッション)」策定の際の重要なことは、10 年後、20 年後のクラブのありようを見据えて「理念（ミッション)」を策定することが必要であるということであった。特に、設立後、自立したクラブに変容していかなければいけないことを意識した理念の確立をしないといけないとのことであった。

次に日々の仕事として多くの時間とエネルギーを費やすことは、「人とのコミュニケーション」であった。この「コミュニケーション」が、難航する課題を克服することができるし、クラブ会員を笑顔にして満足度を高めることにつながるようである。また、この「コミュニケーション」により課題を克服したり、会員の笑顔を見ること、あるいは会員の「楽しかった」という声を聞くことがクラブマネジャーのやりがいにつながっているとのことであった。

最後に、クラブマネジャーの資質は、「人が好き」「将来の自分たちの住む地域をより良い環境にしたい」という思いさえあれば、誰でもできるということであった。

まとめ

３名のパネリストの熱い思いがフロアで聞いている方々に強く響くパネルディスカッションであった。人の力が大切であるが、クラブマネジャーは、誰でもできるし、日常の生活でいい。楽しむ＋責任があれば、大丈夫である。

【パネルディスカッションパートⅢ】

パートⅢとして「クラブスタッフの立場から」阿藤千春 氏（中野南部総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会：長野県)、北瑞穂 氏（ＮＰＯ法人クラブネッツ)、小嶋ちづる 氏（みんスポクラブ：福井県）によるディスカッションが始まった。テーマは「ボランティアとして参画していくには」と題し、進めた。

パートⅢでは、クラブに関わるきっかけから、無償で役割をこなすクラブへの想いについてディスカッションした。

３名は、クラブへの関わり以外に、現役大学生や主婦という立場でもある方々。１４年間体指を務め市のスポーツ振興からの進め、クラブの先輩から紹介してもらったことがきっかけ、行政からの進めがきっかけとなったようであった。

クラブでは、楽しんでスポーツをする仲間を増やしたい。スポーツでの地域恩返しができる機会だと思っている。子どもと触れ合う、実践の場がほしいと思っている。もっと色んなスポーツを経験してもらえる環境をつくっていきたいと、クラブで取り組んでみたいことは色々あるが、ボランティアスタッ

フといえども、地域の様子が気になるということであった。

どの立場でもいえることだが、楽しいことばかりが続くことはなく辛いと感じてしまうこともある。クラブに関わる他にも地域の様々な役職を担っているため、仕事のやりくりが大変になってくる日々、でも、誰もやっていないことをやっている達成感や、参加している方々が喜んでいる姿がみられること、世代の違う人との交流が楽しい。少々、辛くても助けてくれる人がいるので、気になるようなことはない。と、１人ではなく仲間がいるということを強調された。

クラブへの関わりも月日が経つと内容と共に気持の変化もでてくる。初めは不安、しかしそれが期待へと変わってくる。関わることで責任がついてきた。外からの目線でクラブを見るようになってきた。Ｍｙ Club 意識がついてきたと、自分たちがつくり上げていくクラブという気持ちが強くなったとあり、またクラブへの地域からのニーズが聞こえてくるようになったとあった。

ここまでやり続けられるには何かエネルギー源となっているものがあるようで、それは、活動会員が増えてくると、ヨシ！やらなければ！！となる。たくさんの人に出会う機会があり、元気をもらえる。主婦ともなれば、買い物にいくとクラブの方に出会い、「健康になった」「元気になった」といった声をかけてもらうことがあり、その一言が自分を元気にしてくれ、また頑張ろうと思うエネルギーとなっているとあった。

まとめ

・ボランティアマネジメントは、大変難しい。

・ボランティアがものを言えるムードや環境づくりが必要である。

・会員だけでなく、会員外の方も関われ、一人一人がつくっていく、オープンな関係のクラブづくりが必要である。

あれやってこれやってと言われて行動するのではなく、自らの自発的な行動でクラブを支える重要な役割を担う方々であった。無償スタッフは、他クラブにも多くおられるようだが、ボランティアだからというのではなく、他のスタッフと一緒にクラブ運営を考え取り組んでいる姿、言葉に印象が強かった。

一人ではできない、スタッフ一人一人の力がクラブ設立、継続の一歩となっていることを改めて感じた。

【全体まとめ】

榎班長による参加クラブとのまとめをおこなった。

・クラブの状況は、行き詰っているクラブや先が見えず、立ち行かなくなっているクラブが少なくない。それは、理念の欠如と、理念の共有が出来ていないところに原因がある。

・公私２元論から、公私公共の３元論へのシフトが急がれる。・・・・これからのスポーツは、行政セクターでも、企業セクターでもなく、市民社会（地域）セクターである。

・for　me　から　for you そして、with　you へ、多くの地域の方を巻き込み、人材育成を図っていくことがこれからのクラブにとって必要なことである。

（報告：北信越ブロック地方企画班員　白倉　香理）